

物語は人生にどんな影響を及ぼすのか

－思春期に出会った登場人物たちが教えてくれたこと－

渋谷 萌香

(安田女子大学 心理学部)

【問題と目的】

児童文学作家の倉橋燿子のホームページには、主に小学校高学年から中学生までの子どもたちが、本を読んで思い直したこと、勇気が出たこと、登場人物たちの忘れられない言葉などを自身のエピソードを交えながら書いている。これらを読んでいくと、子どもたちは物語中に登場するキャラクターの性格や彼らの言動によって救われ、日常生活の悩みや自身の性格などに重ね合わせることで、解決しようとしていることが考えられる。

西尾（2015）によると、思春期の女子は健康、見た目、性格、友人関係などの悩み経験が男子よりも優位に多いことが報告されている。以上のことから、思春期の女子は多くの悩みや自分に関する考えを持っていると考えられる。

そこで本研究では、思春期を終えた女子大学生を対象に、思春期であったころに印象に残った作品のタイトルをあげてもらい、その作品の登場人物の言動によって悩みの軽減、もしくは思考が変化した経験があるのか尋ねる。そして、どのような言動によって悩みが軽減されたのか、どのように思考が変化し現在の自分へとつながっているのか明らかにすることを目的とした。

【方法】

調査協力者：女子大学生 4 名

調査機関：2022 年 5 月から 6 月

調査内容：思春期のころに印象に残った本のタイトルなど 13 項目を中心に個別に半構造化面接を行った。

【結果と考察】

Table1. 選んだ本のタイトル

A さん	名探偵夢水清志郎（青い鳥文庫：はやみねかおる）
B さん	図書館戦争（角川書店：有川浩）
C さん	神様のカルテ（小学館：夏川草介）
D さん	獣の奏者（講談社：上橋菜穂子）

（1）年上とかっこよさ

印象に残った登場人物とその理由について尋ねたところ、全員が年上の人物の名前を挙げた。

その中で B さんと D さんともに共通していたのは「かっこいい」という言葉であったが、これには尊敬と憧れの二つの意味が含まれていると考えられる。B さんが挙げた登場人物は B さんにとって理想に近い人物で「憧れ」の感情を抱いた

可能性がある。一方で D さんは、印象に残った登場人物について「かっこいい」の他に「すごい」と話していた。「自分自身は行動力がない」とも話しており、登場人物が妻や国のために動く姿を見て、尊敬の念を込めて「かっこいい」と話していたのかもしれない。

（2）没入すること

協力者 4 名のなかで特徴的だったのは、読書がきっかけで行動や思考が変化したことである（Figure.1）。現在の自分に与えている影響については、A さんは「興味の幅が広がり、わからないところは自分から調べるようになった」と言っていた。また B さんは、物語の世界観から「言葉に責任を持たないといけない」と考え、D さんは「ものの見方が一番大きい。立場によって人は変わることを知れたこと」と話していた。



Figure.1 行動や思考が変化するプロセス

Green&Brock（2000）は、物語に没入することは個人の態度や信念が変化するなどの説得効果があると述べている。抱えていた悩みや考え方に対し、物語の世界観や登場人物の言葉たちが影響を与え、今までの行動を顧みて言動や思考に影響を与えたのだと考えられる。A さんや B さん、C さんと D さんともに上記のようにそれぞれが影響を受け、自身の言葉や行動を顧みるきっかけになったと述べており、説得効果があったと考えられる。

【引用文献】

倉橋燿子ホームページ <https://yokokurahashi.amebaownd.com/>

西尾祐美子 2015 思春期の心性に関する研究：親から友人へと変化していく関係性に焦点を当てて 神戸大学発達・臨床心理学研究 14 号 Pp.29-35

Green,M.C,&Brock,T.C 2000 The role of Transportation in the Persuasiveness of Public Narratives Journal of Personality and Social Psychology 2000, Vol.79,No.5,701-721

【指導教員：澤田英三】